

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493100067
法人名	社会福祉法人地域サポート虹
事業所名	グループホームさくらそう
訪問調査日	平成26年10月16日
評価確定日	平成26年12月18日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493100067	事業の開始年月日	平成19年12月1日	
		指定年月日	平成19年12月1日	
法人名	社会福祉法人地域サポート虹			
事業所名	グループホーム さくらそう			
所在地	(〒234-0054)			
	横浜市港南区港南台1-10-8			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	6名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>鎌倉街道に面して交通の便が良いほか、春には花見が出来る自然豊かな公園が直ぐ近くにあり、その公園ではお花見のほか、幼稚園の運動会、町内会のお祭りなど、さまざまなイベントがあり、楽しく積極的に参加させて頂いています。スタッフも地域の女性の方が多く、家庭的で明るく、楽しい、グループホームです。寄り添いを大事に、入居者様が安全に安心して、生活が出来る要支援を行っています。また、地域のボランティアさん、研修生が来られることで、閉ざされた施設ではなく、常にオープンな環境を大事に意識しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成26年10月16日	評価機関 評価決定日	平成26年12月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>●社会福祉法人地域サポート虹は、訪問介護・通所介護・居宅介護支援・グループホーム1・小規模多機能型居宅介護2カ所と子育て支援事業で(にこりんくん・おやこのひろば・おやこの駅ひろば・チューリップ保育室)を展開しており「命を大切に」「ふれ合いの輪を広げる」「今という瞬間、その時を大切に」を理念に、栄区を中心に11事業所を運営し、その一つの介護事業所が、「グループホームさくらそう」です。</p> <p>●JR港南台駅・大船駅から上大岡行きバスにて日野下車、または、京急上大岡駅から大船行きバスにて日野下車で徒歩1分の交通の便が良く、近くにはスーパーや食事処の店等もあり、春には花見や、町内会のお祭りなど様々なイベントが行われ、ホーム近隣には自然豊かな公園があり、鎌倉街道に沿った住宅街の一面に位置しています。ホームは鉄筋3階建てで、その2階、3階部分がホームとなっています。 ●地域には、その人だけの、その人らしい生き方があることを理解し、地域サポート虹では自然に温かく寄り添って歩きたいと願っています。「命を大切に・ふれあいの輪を広げる・今という瞬間を、そのときを大切に」と謳った法人の理念を下に、ケアの方向性を全職員で話し合い、「家庭的で安心できる環境」を指針に、利用者の自立に向けた支援が行われています。 ●地域繋りでは、職員の大半が近くに住む主婦であったり、管理者が町内会役員を引き受ける等の関係から、祭り等の諸行事に積極的に参加し、日常的な交流が行われています。</p> <p>●ホームの特色として、職員の育成に注力しており、内外研修を通じて介護知識を高め、利用者の一人一人に寄り添うことで「思い」を汲み取り、安全で安心して頂ける介護の取り組みを徹底し、医療支援でもその人に最も適した薬剤や量、そして、食事等も医師や専門員に相談しながら対処し、健康回復の改善事例も多く持って支援を行っています。 ●防災の取り組みでは、所轄消防署や自治会などへの協力要請と、近くに住む職員の連絡網の整備を図り、防災体制構築が行われています。 ●終末介護支援では、利用者、家族の思いに沿った、安心、納得、信頼して頂ける支援を来ない、実績も多く持っています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム さくらそう
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を指針にケア方向を話し合いを実施している。人に優しく寄り添いを大事に家庭的で安心できる環境を実現している。瞬間の幸せを大事にしている。	地域には、その人だけの、その人らしい生き方があることを理解し、地域サポート虹では、自然に温かく寄り添って歩きたいと願っています。その時を大切に謳った理念に沿い、「①人を大切に②ふれあいの輪を広げる③今という瞬間を」等を全職員で共通理解のもと、ケアの方向性を話し合い、利用者に「優しく、寄り添い」を大事にした家庭的で、安心のある支援を日々の介護として実践しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に参加している。スタッフの殆どが地域に住んでいる。同じ建物にある障害者施設と月1回交流を行っている。自治会の防災行事に参加している。平成26年度は自治会役員をしている。	事業所の方針として地域交流を大事にし、触れ合いの場を広げるとし、散歩時などには職員から挨拶を行い、地域の方と交流を図っています。また、職員の殆どが、近くに住む主婦の方で、職員を通じても近所付き合いが多くあり、管理者は平成26年度の自治会の役員も担当しており、自治会行事での防災訓練などにも積極的に参加しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々見学者を受け入れ、真摯に対応している。同時、認知症介護の相談、アドバイス、施設等の情報提供を行っている。港南台地域プラザの認知症家族の会の集まりに参加している。2ヶ月に1回		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着を大事にし、自治会からの招待によるイベントに参加。自治会の運動会等にも積極的に参加している。事業所の避難訓練時には自治会の方に参加いただいている。	法人として地域密着を大事にし、人の触れ合いの場を広げるとした理念の下、事業所の活動もこの理念に則り、自治会役員や包括センター職員、家族の参加で2ヶ月に1回運営推進会議を開催して、事業所の活動状況や催事計画等も報告しています。また、自治会の招待による運動会等イベントには積極的に参加しています。自治会の防災訓練に事業所として参加すると共に、事業所主催の避難訓練時には自治会の方にも参加してもらっています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアプラザの研修会に参加。横浜市主催の研修会の現場実習の受け入れ施設として、毎年数人受け入れている。横浜健康福祉局主催の11月1日のフォーラムに協賛している。	事業所では毎年横浜市の研修の一環として行われる介護施設の現場実習生の受け入れを行っており、連携は密に取っています。今年度11月1日から行われる横浜健康福祉局主催のフォーラムにも協賛して参加するなど、常に市町村とは協力関係を築いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を配布し、施設内に貼ってある。身体拘束の考え方など、指導しており、スタッフに浸透している。できるだけオープンな環境を意識して運営している。	身体拘束及び（虐待）について、どのような行為・言葉が身体拘束に当たるのか？その弊害として、利用者にとの様なデメリットを与えるのか等をテーマとして研修を行い、その資料を施設内に掲示し、常に目に付くようにしてスタッフに啓蒙しています。また、施設運用に当たっては玄関施錠などもしないオープンな環境を意識し、拘束（虐待）のないケアに取り組んでいます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	資料を配布して施設内に貼っている。虐待防止の考え方など、指導しておりスタッフに浸透している。できるだけオープンな環境を意識して運営している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配布して施設内に貼っている。虐待防止の考え方など、指導しておりスタッフに浸透している。できるだけオープンな環境を意識して運営している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までには、施設見学、説明を十分に行い、本人、ご家族ともに理解、納得いただいた上で契約を行なっている。介護保険の料金等の改正時にも十分説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族が要望をいい易い環境づくりを意識し、実際に日々、随時、スタッフから、若しくは家族から声を掛け合える環境になっている。管理者とはメールでも、やり取りしている。	事業所では利用者、その家族、更には職員からの意見や要望など、忌憚のない声を大切に考え、何事も言い易い環境作りを心がけ、職員と管理者、職員と利用者、そしてその家族との間でも、何時でも気軽に声を掛け合えるようになっています。管理者と家族の間ではメールのやり取りも行われ、意見や要望の聴取に努めています。得られた情報は検討して運営に反映するよう努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全事業所で運営会議を行っている。年に数回、実務者の連絡会議を行い、報告、意見を出し合っている。	月1回、法人内全事業所が集まる運営会議が行われて、運営に関する方針と、また、夫々の事業所が持つ問題についても話し合い検討が行われ、グループの考えとして統一した見解を出し、解決するようにしています。また、年に数回、実務者の連絡会議も行い、報告、意見を出し合って同様の解決策をとり運営に反映し、職員に報告しています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と代表者は月1回ミーティングの場をも設け、職員の要望、意見、待遇面を含め話し合っている。管理者と職員は日々、意見を言い合える環境となっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にグループホーム内で研修を行っている。計画的に外部への研修（認知症介護実践研修）に参加している。平成26年度は2名参加基礎課程1名、専門課程1名。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同じく内のグループホームの管理者と連絡を取り合い情報交換及び相談をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添い中心の介護、支援に努めている。スタッフの多くが子育て中の主婦で優しく接してくれている。会話等で得た情報等、スタッフ間で共有に努めている。センター方式も使用。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際にご自宅や病院に行き、話を聞き、他事業所に行かれている場合は、利用状況など確認を行っている。不安なこと、要望などを聞き、話し合い、信頼関係を構築している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と面接や話し合いを行い、最も良いと思える支援を見極め、契約を行っている、他事業所も含め適切なサービス情報を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には常に感謝の気持ちを大事にするように指導している。「ありがとう」「ごめんなさい」と気持ちよく言える事。また、職員にとっても学びの場であることを話している。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ、ご家族へのイベントの参加、スタッフとの交流の機会を設け、お互いを理解できるよう努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢化が進み、外出での馴染みの場所支援は困難ですが、馴染みの人との関係継続には努めています。ご姉妹や孫や親戚の方も来る機会があります。前の施設のスタッフが来たりもしています。	利用者の高齢化が進み、遠くの外出での馴染みの場所支援は困難となっていますが、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています。姉妹や孫、親戚の方の来訪も多く、家族と共に墓参り等も行く方もいます。また、その他、以前に入居していた施設のスタッフの来訪もあり、馴染みの関係継続支援に努めています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフとの寄り添いと同様、ご利用者さま同士の関係も大事に支援に努めております。多くの時間を皆で過ごしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処し病院に入院し2年以上の方のお見舞いに行った実績あり、退所後もご家族が正月に獅子舞のボランティア来所いただける関係が出来ている。退所後に、ご家族がスタッフとして努めている。2014年8月6日1周忌となりましたと、ご家族が3にんさくらそうに、挨拶に来られた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者にあわせ生活の支援を行っている。寝たきりの利用者がトイレでの排泄を希望している場合、スタッフ3人体制の時、可能な時は、トイレでの対応に努めている。	利用者に合わせ、一人ひとりの思いや暮らし方の希望を、日頃の会話が困難な方にも仕草や表情などから思いや意向の把握に努めています。寝たきりの利用者がトイレでの排泄を希望している場合は、スタッフが3人体制で時間帯を見計らい、希望に沿ったトイレでの対応に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のペースに合わせ、生活の支援を行っている。好きな食べ物、好きなレクリエーション等、取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護師、管理者日勤と夜勤のスタッフ間の申し送り、情報共有には努めている。特に、夜勤のスタッフは1日の状態を把握する為に体調（体温表）の書き込みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人から若しくは、家族からの希望を元に、また、日々のケアの中で感じたこと、ミーティングで話し合い、介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、ケアプランの見直しは基本的に3ヶ月に1度を基本として、本人、若しくは、家族からの希望を聞いた上で、日々のケアの中から得られた観察結果の情報を基に、職員それぞれの意見やアイデアをミーティングで話し合い、介護計画に反映させ作成しています。状態変化があった場合は、都度見直しを行い、適切なケアが出来るようにケアプランを作成しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに、個人的に気になった小さなことから積極的に記入する、介護記録も同様、行った事、その反応から、出来るだけ記入し、ミーティングで確認整理している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近所の方、研修生ボランティアの関わりを大事にし、参加可能なイベントには参加し、交流できるものは交流するよう努めている。ご家族の要望など相談にのっている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のイベントに参加、地域整髪ボランティアの利用、近所への買い物、スタッフのお子さんとの交流に努めている。今年は地域の寄り添いボランティアさんとの交流がある。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に応じ、協力医療機関の先生の往診を利用している。	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医を決めてもらっています。協力医療機関以外で受診している方には、生活状況の提供などを行ない、診察内容を報告してもらい情報を共有しています。また、現在、事業所の協力医療機関として、内科、精神科を設定し、定期往診診療をしてもらう等、便利さとの兼ね合いから多くの利用者が利用し、安心かつ適切な医療支援を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に作成している。体温表を見ることで、看護師は状態を把握出来る様になっている。看護師を含むスタッフ全体でミーティングし話し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の往診の先生には、ターミナル介護を含め早期に退院出来るよう常に相談している。入院した場合には入院した病院の先生と話し早期に退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が進むことによる、今後の関係など、本人、家族、スタッフ、協力医療機関の先生と常に説明、相談をしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から今後の関係について、本人、家族、スタッフ、協力医療機関の医師と事業所で出来ることを十分に説明し、話し合い、方向を決めています。事業所では看取り介護の経験も数多くあり、全職員が看取りに関する事業所の方針を共有認識して、関係者と共にチームで終末期に向けた支援の体制を整えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の体調管理の徹底に努めており、予防と早期対応を徹底している。その上で利用者個々に起こりうる特変は、事前に話し合い、対応出来るよう指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制の構築に努めている。地域に住んでいるスタッフが多いこともあり、緊急連絡網があり、希求時の対応も意識できている。夜間想定避難訓練に自治会の方に参加いただいた。	事業所の近くに住んでいる職員が多い事もあり、緊急時の連絡網も整備され、緊急時の対応は十分に意識しています。火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に、地域との協力体制（階下の他法人の事業所との）を築き、夜間想定避難訓練には自治会の方にも参加してもらっています。また、事業所の設備として火災自動警報装置に加え、スプリンクラーも設置されており、災害時対応の備品及び食料などの備蓄品も備えています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には常に感謝の気持ちを大事にするように指導している。「ありがとう」と「ごめんなさい」が気持ちよく言える事。思いやりのある声掛けを指導している。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重し、トイレ誘導時や失敗した際の下着交換時の声かけ時には特に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや誘導を心がけて介護支援に当たっています。また、管理者は、介護者として常に感謝の気持ちを大切に「ありがとう」と「ごめんなさい」が気持ちよく言える様に指導しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人お思いや希望、自己決定できるよう支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調やペースに合わせて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪ボランティアの利用から、馴染みの床屋に訪問いただくよう連携、支援を行い。日々の身だしなみ、着替えには十分支援が出来ている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを大事に食事を作っている。出来る準備は一緒に行っている。主に食器拭きをやっている。	食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや、持つ力を活かしながら、職員が作る献立に従って食事作りを行っています。手伝いが出来る方には、職員と一緒に食器拭きや、ランチオマツの準備等を手伝ってもらっています。食事は職員が談笑を交えながら個々のペースに合わせた食事介助を行っています。また、誕生日やその他行事日には手作りのケーキや特別食を提供し、時には出前なども交えながら楽しく食事が出来るよう支援しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、水分量の確認、支援、体調管理など、徹底している。状態に応じミキサー食での対応を子になっており、どうしても食べられない場合は、栄養剤の摂取にも努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握や支援を行っている。出来る限りトイレでの排泄支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを記録により把握すると共に、個々の観察と、習慣を活かしながらトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っています。また、排泄の失敗やおむつの使用を減らしています。夜間においても、睡眠の妨げにならないよう注意を払いながら声掛けで支援が行われています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の飲食物の工夫、運動、排泄タイミングを把握、検討を行い対応に努めている。往診の先生ともよく相談し、下剤の調整を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ひとり一人に声をかけ、希望に応じて入浴を支援している。	入浴には、打ち身、傷等を含めたその時の状態を観察する重要な役割を持つこと認識し、職員の都合で曜日や時間帯などを決めたりせず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援しています。更に、新しくなった浴室にはミスト浴もあり、車椅子での入浴対応に加え、柚子湯や菖蒲湯等の季節に応じた工夫をし、個々に応じた入浴の支援を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣、体調等に合わせ、安心して気持ちよく休息できるよう、安眠できる要支援をしている。一人で眠れないご利用者はスタッフのいる今にベッドを用意し対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その薬の服薬の意味から、薬の変更、変更の理由、副作用の報告等、随時指示をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでいただいたり、一緒に歌を歌ったり、リクレーションを行ったり、話を聴いたり、寄り添いと一人一人に合わせて、支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人希望にあわせ、体調等を考慮し、対応、支援に努めている。町内会のイベント参加補助、家族の夕食、外出の支援。遠足。	外出については、一人ひとりのその日の体調や希望に合わせて、近くの散歩コースや、町内会のイベントへ出かけています。また、時には家族同行で外出し、食事などへ出かけている方もいます。また、事業所の年間計画の中で遠足なども組み込まれており、外出する機会を設けながら支援に努めています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じて、買い物時には財布をお渡しし、自身で購入できるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたい場合には、支援している。手紙も本人宛に届くようになっており、希望、力に応じて手紙を書く支援に努めている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行って清潔な環境に努めている。希望を感じる飾りつけを取り入れている。	ホームは本年3月に、外装と館内全体がリフォームされ、床面のバリアフリーに加えキッチン、浴室、トイレ等も新調しています。共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は清掃が行き届き、利用者にとって不快や混乱を招くような（音、光、色、温度など）は無く、快適環境が整えられています。また、居間には、その時々思い出の生活風景の写真に加え、利用者が作成した切り絵や季節の生け花が飾られ、季節感を味わいながら居心地よく過ごせるように工夫がされています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の希望や力に応じて、また、その場の精神状態に合わせ、語利用者が安心して過ごせるよう配置等は考慮し対応している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人とご家族の思い思いの家具が設置されている。構造上各部屋が全く異なる構成なので、部屋を間違えることは少ない。安心して生活が出来る。	居室は、構造上各部屋がそれぞれ異なる構成になっています。居室内には、使い慣れた家具や鏡台、整理ダンス、ぬいぐるみ、家族写真に加え仏壇などが置かれ、それぞれの思いの設えと成っています。また、各居室には加湿器、エアコンが設置されており、職員によってその人に合わせた空調管理が行われています。また、各部屋の形状が異なることから部屋を間違えることもなく、思い思いに安心して居心地よく生活が出来ように配慮されています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手すりを設置、トイレに近い方は、トイレに近い場所を定位置に定め、迷わずトイレに行けるよう考慮している。			

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームさくらそう

作成日 平成26年10月16日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	41	摂食の障害を理由に退所された	摂食障害、嚥下障害に対する、対応を学ぶ。	①研修を積極的に行う。事業所内、事業所外にて。 ②他の事業所など、交流を大事にし情報交換を行い、成功事例など学ぶ。	1年
2	33	重度化に対応出来る介護のスキルアップ	意思と看護師との密なる連携、管理の下ストマの管理を行う。	①研修を積極的に行う。事業所内、事業所外にて。 ②医師と看護師、介護スタッフとの連携の更なる強化を検討する。	1年
	26	スタッフのスキルアップ。(介護支援専門員)	介護支援専門員のスキルアップ。	①介護支援専門員の資格を取得したスタッフが、新たに、主体となって、ケアの方向性を整理し、利用者が安心安全に過ごすために必要な、サービス計画書を作成し、チームケアを進める。	1年
	26	スタッフのスキルアップ。(介護福祉士)	介護福祉士のスキルアップ。	①介護福祉士を取得したで終わらず、取得した知識、技能を、スタッフに伝える事で、チーム全体のケアのスキルアップを進める。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。